

# 広島県「市町等の取組支援事業」における 日本語ボランティア養成講座の成果と課題

ある養成講座の事例から

(公財)ひろしま国際センター

犬飼康弘

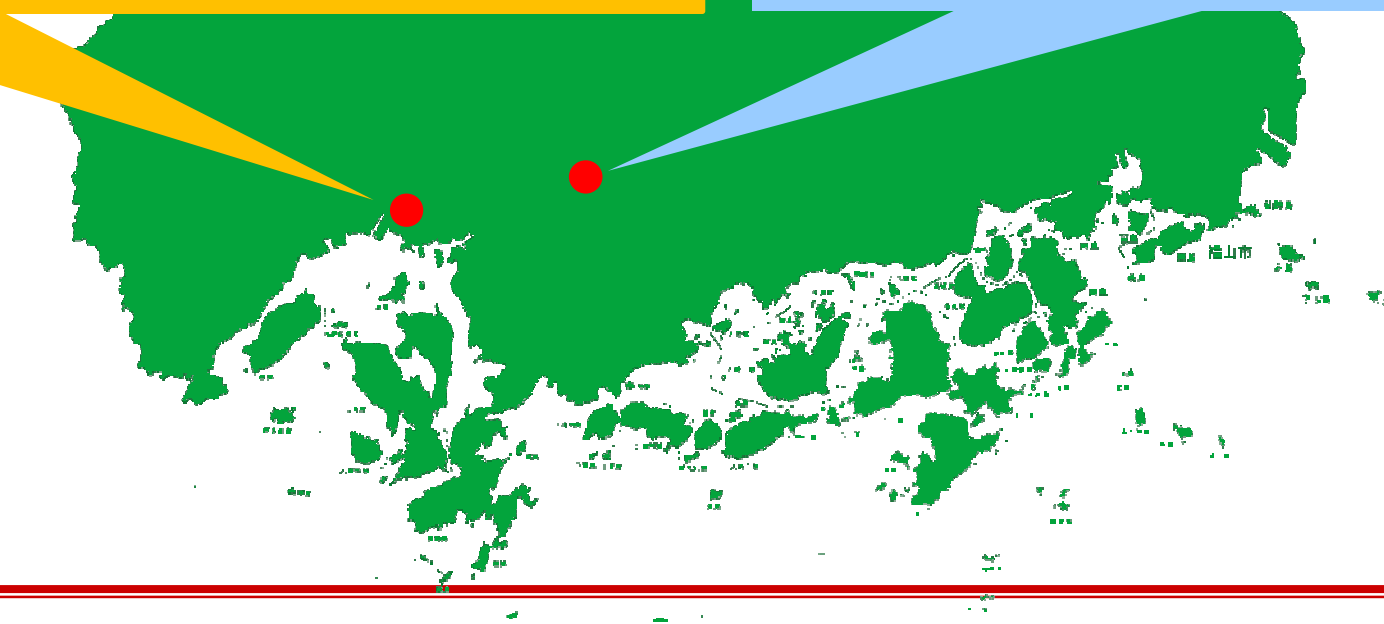
# (公財)ひろしま国際センター

## 交流部

- ・国際交流活動の振興
- ・国際交流に関する講演、研修催事の開催
- ・県内在住外国人留学生支援事業

## 研修部

- ・国際協力研修事業
- ・日本語研修事業
- ・国際人材育成研修事業
- ・JICA研修等受託事業
- ・地域の国際化推進事業
- ・地域交流事業



# 広島県の多文化共生地域づくり支援事業

- ひろしま多文化共生連絡協議会
  - 市町や国等の関係機関による情報共有・連携強化の場として開催
- 市町等の取り組み支援の充実
  - 地域住民の啓発や研修活動等、市町等の主体的な取り組みの支援を強化すると共に、多文化共生に関わる人材育成とネットワークづくりを充実する
- 外国人相談窓口の運営
  - 公益財団法人ひろしま国際センターでは、在留資格および労働関係の専門相談に特化して運営
  - 情報相談窓口など、多文化共生に関わる情報を県内外から収集・整理し、相談者や関係機関に提供する
- 行政情報等の多言語化

# 市町等の取り組み支援事業

---

- 市町担当職員研修
- 相談員等ネットワーク構築研修
- 市町等の啓発事業等の取組支援

# 市町等の啓発事業等の取組支援

## ■ 目的

- 広島県内市町等による多文化共生の地域づくりの取組を支援する

## ■ 対象

- 県内市町及び県内市町の国際交流協会
- 上記団体と共催で実施する多文化共生の支援団体

## ■ 内容

- 市町等が実施する多文化共生に係る啓発事業の開催に伴う、講師紹介や調整、講師経費の負担等の支援

# 市町等の啓発事業等の取組支援

## 交流部

- ・国際交流活動の振興
- ・国際交流に関する講演、研修催事の開催
- ・県内在住外国人留学生支援事業

## 研修部

- ・国際協力研修事業
- ・日本語研修事業
- ・国際人材育成研修事業
- ・JICA研修等受託事業
- ・地域の国際化推進事業
- ・地域交流事業

相談・派遣講師調整

相談・申請

県内市町・国際交流協会等  
研修等の要望・相談

必要に応じ講師として派遣

# 市町等の啓発事業等の取組支援

## ■ 平成27年度実績

- 13市町31回の講座等を実施

※うち23回は研修部より講師派遣

- 延べ参加者数699名

## ■ 主な講座内容

- 日本語ボランティア養成講座(16回)
- 「やさしい日本語」に関する研修会(13回)
- その他、外国人児童・生徒支援に関わるものや、異文化理解に関するもの

# 日本語ボランティア養成講座の事例(広島県A市)

## ■ 目的

- 日本語ボランティアとして活動するための基礎講座の実施

## ■ 対象

- 日本語ボランティアに興味のある方(参加:14~16名)

## ■ 期間

- 2015年10月~11月
- 全4回(計8時間)



# 日本語ボランティア養成講座の事例(広島県A市)

## ■ 到達目標

- 外国人市民の心情の一端を知り、日本語ボランティア・隣人として接する際の留意点について検討する
- 「やさしい日本語」の概略を知り、外国人市民とのコミュニケーションツールとしての日本語を見直す
- 相互に「学び」・「支えあう」ことを前提とした「日本語学習支援」方法の基礎を知り、教室の役割を考える
- 外国人市民との対話から、必要な支援やその在り方について検討する

# 日本語ボランティア養成講座の事例(広島県A市)

## ■ 第1回:「外国語体験」

- 各グループに外国人市民に入ってもらい、彼らの母語のみで活動を行う、ワークショップ
  
- 外国語環境下でのストレス等を体験してもらうことと、その振り返りで構成

# 日本語ボランティア養成講座の事例(広島県A市)

## ■ 第2回:「やさしい日本語」

- 第1回の「外国語体験」を踏まえ、コミュニケーションの基礎として、外国の人にも分かりやすい「やさしい日本語」について考える
- 「やさしい日本語」に関する概説と具体的な練習で構成
- 「聞き手」としての配慮についても言及

# 日本語ボランティア養成講座の事例(広島県A市)

## ■ 第3回:「日本語学習支援の方法」

- 相互に「学び」・「支えあう」ことを前提とした日本語学習支援の基本的な考え方について検討
- また、具体的な学習場面等の例示と共に、学習者ニーズを把握することの重要性について考える
- 外国語学習体験と、その解説等から構成

# 日本語ボランティア養成講座の事例(広島県A市)

- 第4回:「外国人市民の『声』を聴く」
  - 第3回で触れたニーズ等を、実際に外国人市民から聞き取ることを目的として実施
  - また、この活動を通し、隣人としての相互理解を深め、在住地域内での交流深化の一助とする

## 地域日本語教室の課題として…

### ■ 地域日本語教室では…

- 「教える—教えられる」関係から脱却
- 日本語にとらわれない活動へと軸足を移していく必要がある

(森本・服部2006)

- 周囲の人と関わり、社会に参加することで、より質の高い生活を追及していくこと

(宇佐美2010)

## 疑問点…

---

- 日本語ボランティア講座受講者は
  - 日本語教室・外国人に対しどのような意識を持っているか？
  - 講座受講により、どのように変化するのか？

# 調査概要

## ■ 半自由記述作文形式

- 日本語教室とは…
- 日本語教室で大切なことは…
- 日本語ボランティアとは…
- 日本語ボランティアに必要な力は…
- 外国人市民は…
- 外国人市民が日本で生活していくためには…
- 外国人市民と共に生活していくためには…
- 私はA市市民として…



# 調査概要

---

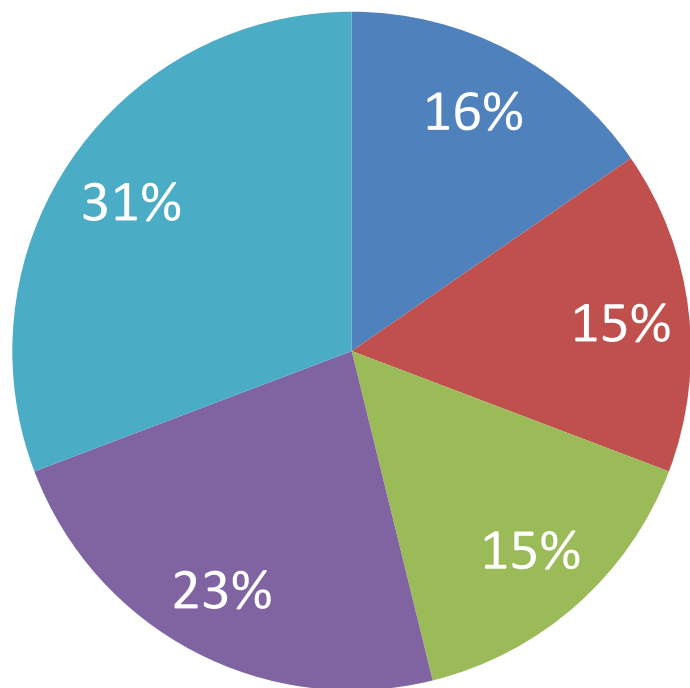
## ■ 事前

– 「日本語教室とは\_\_\_\_\_」

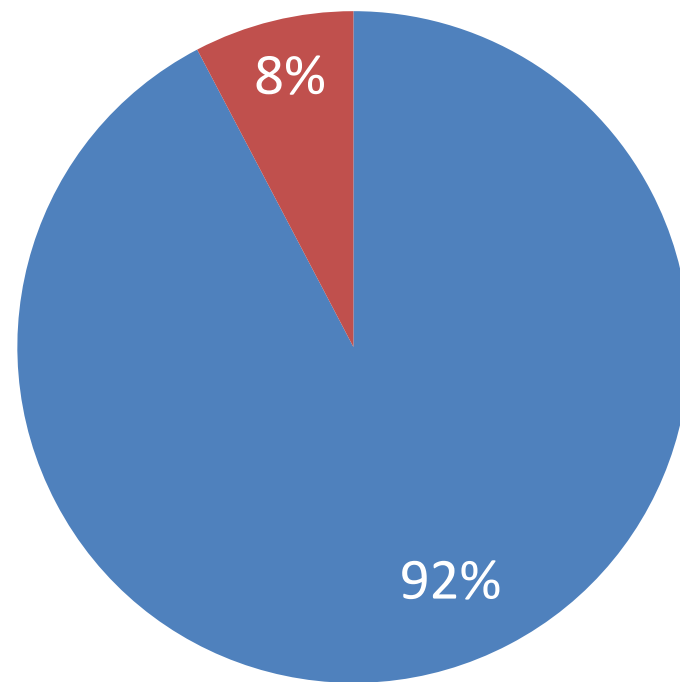
## ■ 事後

– 「日本語教室とは、はじめは\_\_\_\_\_と  
思っていたが、今は/も\_\_\_\_\_」

# 年齡・性別

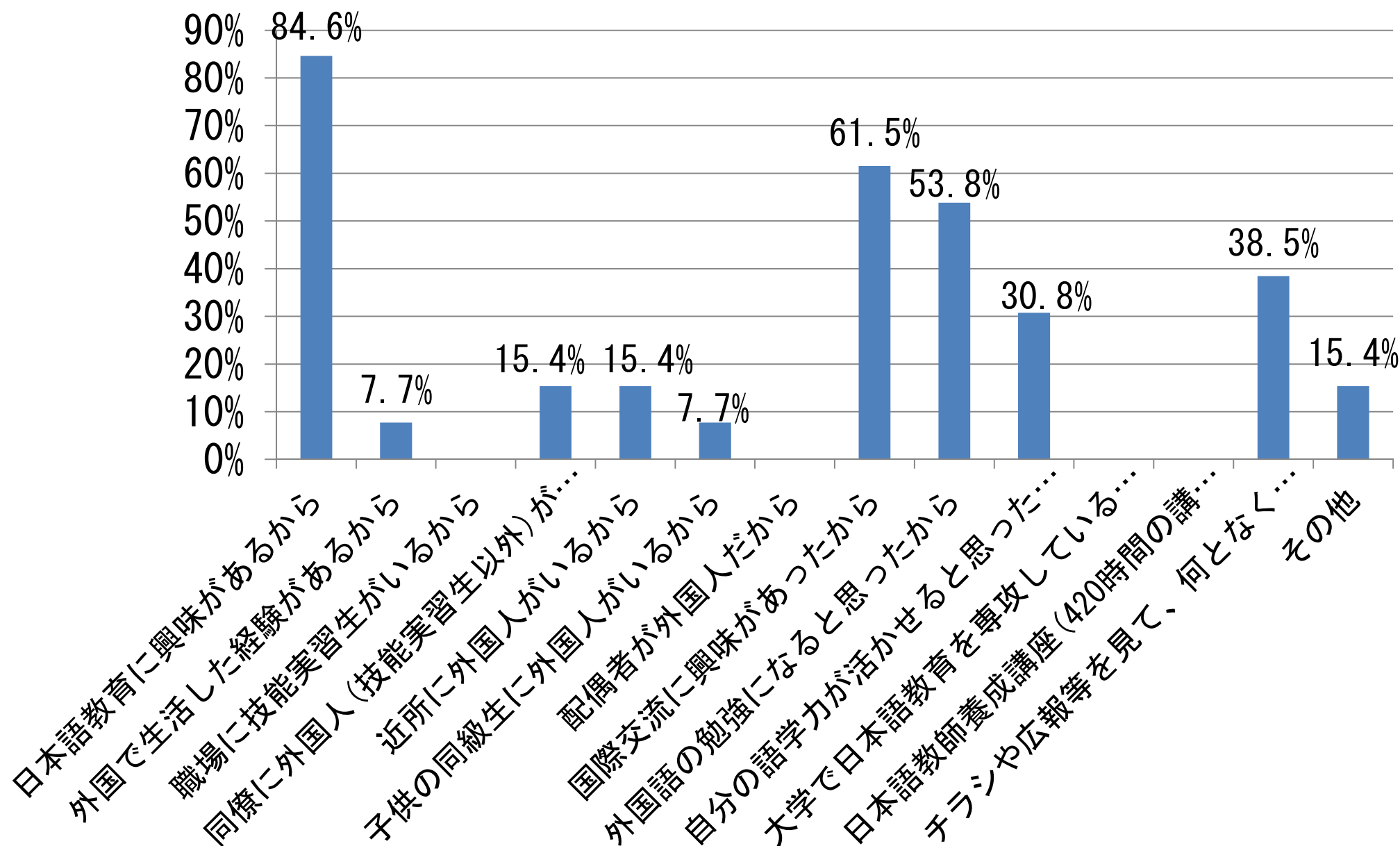


- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代以上

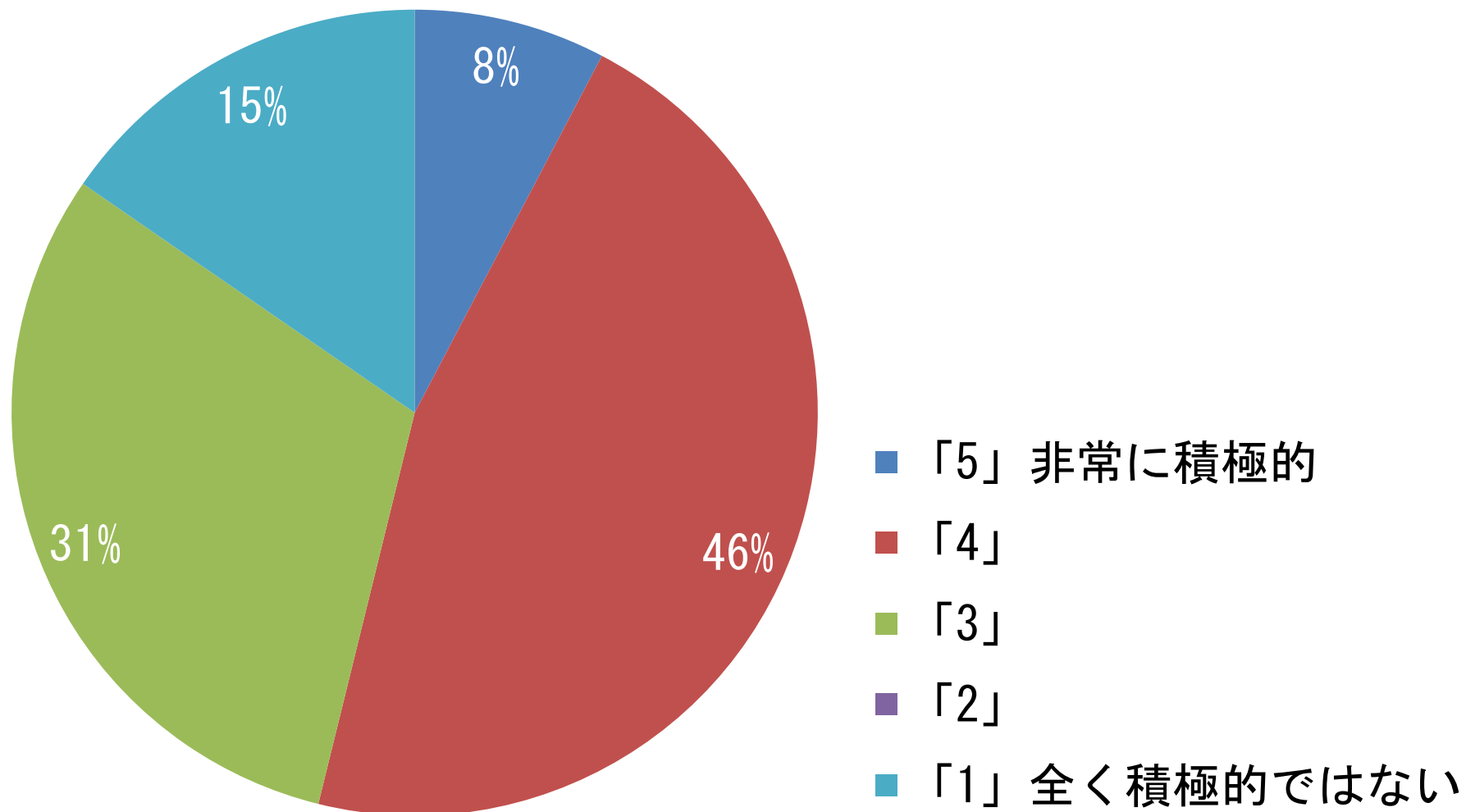


- 女
- 男

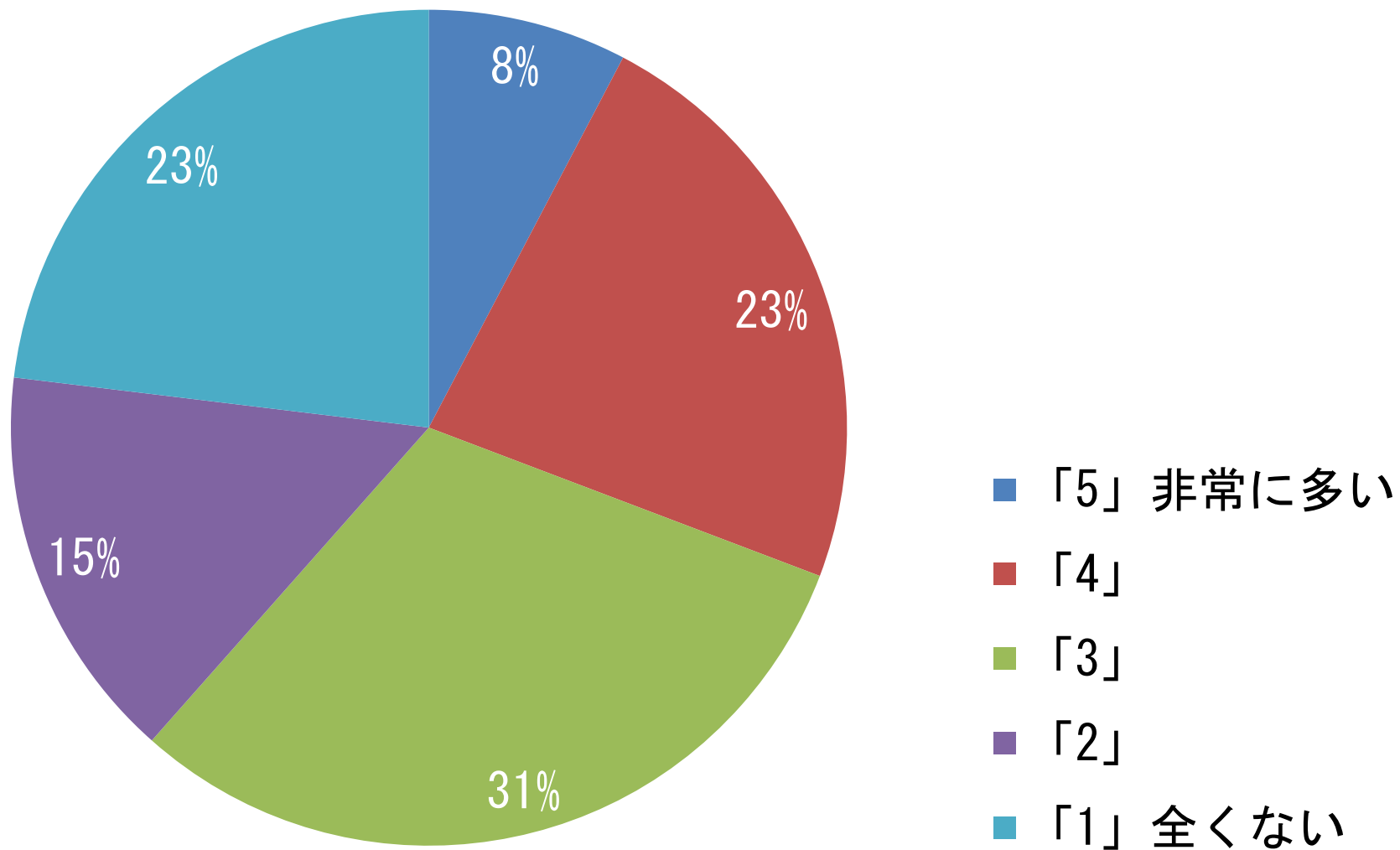
# 参加動機



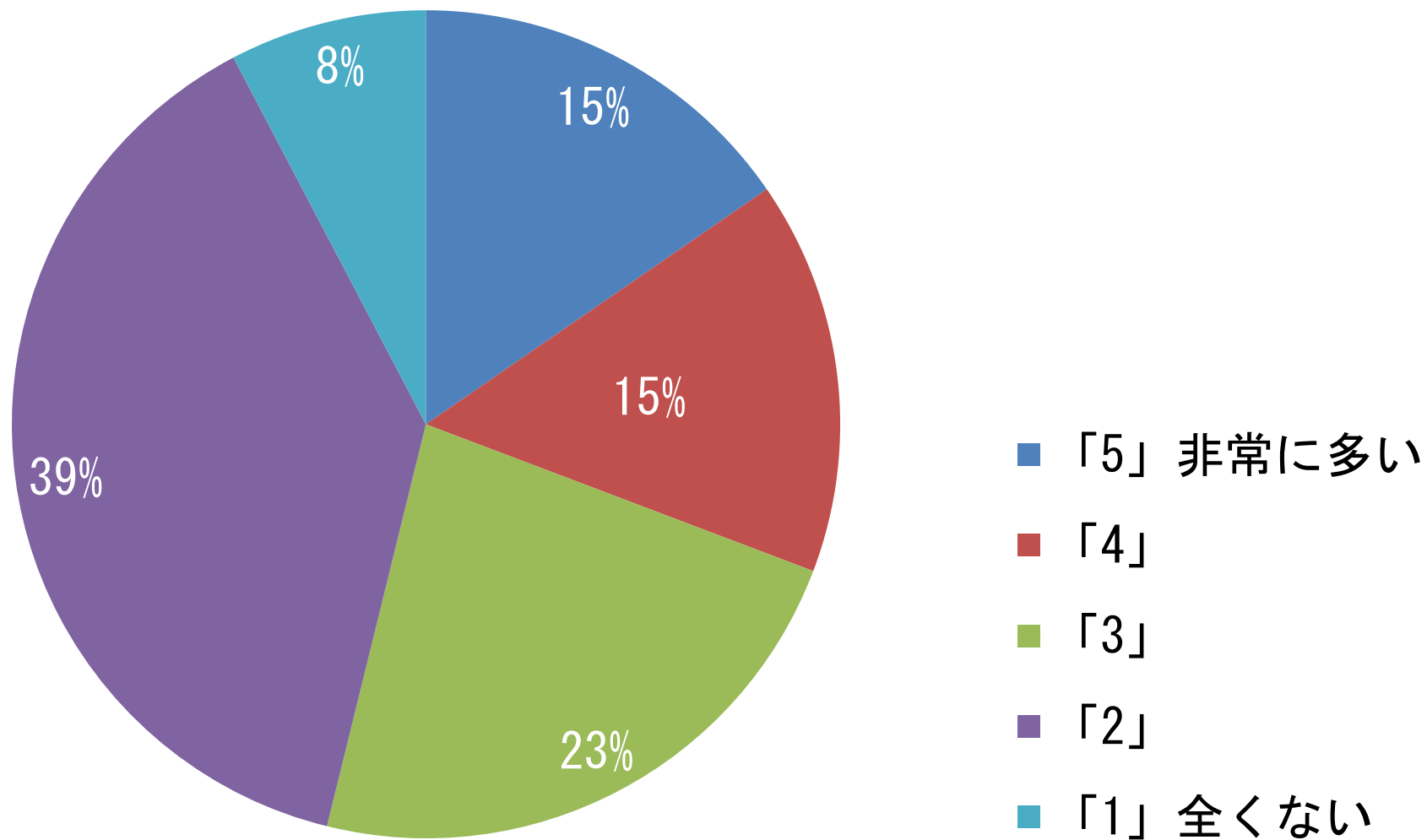
## 国際交流・協力活動に…



# 外国人市民との交流の機会が…



## 外国人の知人・友人が…



事前調査の回答事例 (n=13)

日本語教室は…

- ・外国人の方々が、**日本語を学ぶ**所
- ・海外の人達に教えるために正しい言葉やどうやって伝えるかを学ぶ
- ・外国の方に**日本語の初歩を教える**教室
- ・**癒しの場**である

ボランティアに必要な力は…

- ・**コミュニケーション能力**
- ・**相手を理解**する力です
- ・外国人が**話しやすい雰囲気を作る**
- ・お互い相手の方の言葉は分からないかもしれない。**どうすれば分かりあえるか考える。**
- ・思いやり、**語学力**、表現力
- ・日本語を教えること

事後調査の回答事例 (n=16)

日本語教室は、はじめ…

- ・日本語を教える(学ぶ)教室
- ・**英語ができればなんとかなる、”日本語”を教える場**
- ・**特別な教室**である
- ・**癒しの場**である

ボランティアに必要な力は、はじめ…

- ・**語学力**
- ・**英語**等の語学力が必要である
- ・**国語**の学力
- ・教える技術だ
- ・**コミュニケーション能力**

今は/も…

- ・**対話**をする場
- ・英語は単なるツールで英語を話せない方もいる。**双方がさまざまなことを学び合う”居場所”**だと考えています。
- ・思わない
- ・**いやしの場**である

今は/も…

- ・参加を通して、**異文化理解**を知る事
- ・**特別な語学力が必要であるとは思わない。**
- ・**コミュニケーション能力**
- ・**相互に理解**するためのいろいろな活動をする力だと思います
- ・**コミュニケーション能力**  
相手を理解・受け入れることだと思っています。

事前調査の回答事例 (n=13)	事後調査の回答事例 (n=16)	
外国人市民は…	外国人市民は、はじめ…	今は/も…
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最近<b>増えています</b></li> <li>・ 彼らにとって<b>日本語は非常に難しい</b></li> <li>・ 自国とはまったく違う環境で、<b>とまどう事も多い</b>かもしれない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>とっつきにくい</b></li> <li>・ <b>苦手</b> (言葉が通じない)</li> <li>・ 自分には<b>関係ない</b></li> <li>・ <b>遠い存在</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本人と<b>同じだ</b>と思いました</li> <li>・ 笑顔で<b>積極的に話しかけていこう</b>と思います。</li> <li>・ 何か自分で力になれる事があれば相談にのりたい</li> <li>・ もっと<b>身近</b>に感じられます</li> </ul>
共に生活していくためには…	共に生活していくためには、はじめ…	今は/も…
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お互いに<b>お互いの国・文化を理解</b>すること</li> <li>・ 共に<b>何かを共有し合う</b>ことが大切です。</li> <li>・ 簡単な日常会話の習得など、<b>困っている時には、何らかの手助けをする</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共に生活するのは<b>いやだ</b></li> <li>・ 文化・風習の違いがあり、<b>困難である</b></li> <li>・ <b>英語</b>が話せることが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分から大きな入り口を開いて<b>共にわかり合わない</b>といけない</li> <li>・ 思わない</li> <li>・ <b>双方学ぶ、多文化共生を前向きに進めていける</b>という意識をもつことが必要</li> </ul>



## 調査結果より…

### ■ 受講者の中には…

- 語学力(英語)を心配していた人も…
- 外国人市民に対し、否定的感情があった人も…

### ■ 養成講座の成果

- 直接接する・体験することで…
  - ・外国人市民に対する理解の一助
  - ・自らの内面の問い直し



日本語ボランティアとしての出発点

# 課題

---

- 実際の活動の中での変容…
- キーパーソンの育成…
- 継続的な支援の方法…
- 養成講座担当者の育成…

# 主な参考文献 (スライド中に直接引用されていないものも含まれています)

- 宇佐美洋(2010). 実行頻度からみた「外国人が日本で行う行動」の再分類—「生活のための日本語」全国調査から『日本語教育』144, 145-156.
- 渋谷直樹(2003). 地域ネットワークの構築過程とキーパースンの役割—言語学習の現場で生じる位置取りのダイナミズムに着目して『異文化間教育』18, 36-46.
- 広田康生(2003). 『エスニシティと都市』有信堂高文社.
- 三代純平, 鄭京姫(2006). 「正しい日本語」を教えることの問題と「共生言語としての日本語」への展望 『言語文化教育研究』5, 80-93.
- 森本郁代, 服部圭子(2006). 地域日本語支援活動の現場と社会をつなぐもの—日本語ボランティアの声から. 植田晃次, 山下仁(編)『「共生」の内実 批判的社会言語学からの問いかけ』(pp. 127-155)三元社.
- ネウストプニー, J.V. (1995). 『新しい日本語教育のために』大修館書店.